



夢よもう一度 幼きアスリートたちに期待

猪股武雄さん(五六の町・無職・79歳)

一月十一日付けの新潟日報に「平成三年県陸上中学女子十傑」が発表された。何と白根第一中学校から百、二百、三百、四百、五百、六百、七百、八百、九百、千、走り幅跳び、三種競技Bと、大量に入っている。また昨春秋、長岡で行われた少年少女親善オリンピックでも白根小と一中の子供たちが、八種目に一位または三位以内に入

白根には大正十五年時代・昭和六年時代・二十年時代の三回の黄金時代があったとされている。こういう輝かしい過去の土壌から前述の少年少女が生まれて

きたものと思う。この子供たちが今後どのように力を伸ばしていくか。この素晴らしい幼きアスリートの芽をいかに育てていくか、今後の課題であろう。

寒梅のころ 看護婦さんのありがたさ

須戸圭一さん(庄瀬6・無職・66歳)



寒梅がようやくつぼみを膨らませて、遠からず香り豊かに咲くころとなりました。今ごろになると、いつも思い出すことがあります。それは私が腰椎の手術を受けたときのことです。手術後、体を固定され、仰向けに寝かされたまま身動き一つできない状態が二カ月間続きました。天井とにらみ合いの生活。それは想像を絶するものがあり

ました。早く良くなりたい一心で、後何日と指折り数えながら待つ、長くつらい毎日でした。そんなとき、窓辺に置かれた鉢の寒梅。一輪一輪、けんを競うがごとく見事に咲き誇っている様子を、身動きのできぬ私は何とも言えぬ安らぎの気持ちで眺めたことでした。さらに毎晩毎晩の看護婦さんの献身的な看護。いつも感謝の気持ちでいっぱいでした。そして四カ月の入院生活の後に退院。あれから何年たったでしょう。

市民談話室

4月1日号の原稿を募集します。皆さんが日ごろ考えていることや身近な出来事など、気軽に投稿してください。字数は400字から500字程度とします。あて先は、〒950-12白根市大字白根1235 白根市役所 企画調整課 広報広聴係(☎373-2111④333)です。



平成四年度には看護婦不足が深刻な社会問題として取り上げられています。国も地方も看護婦の養成に懸命な対策を講じているようです。病に倒れて初めて知る看護婦さんのご苦労とありがたさ。私は一人でも多くの看護婦さんが誕生することを待ち望んでいる一人です。寒梅の咲くころになると、過ぎたあのころが無性に思い出されます。



校舎のこと 白井小学校の思い出

中山昌磨さん(魚町・会社嘱託62歳)

国道8号を走りながらほぼ一年間、北中学校の工事の進み具合を見てきました。今では外側の覆いも取り外され、校舎の全貌が見られるようになりました。夕刻時には教室に電灯がともされ、内装工事が続いていることが伺われます。四月からこの北中学校に通学する子供たちも、期待に胸を膨らませながら工事を見守っていることでしょう。

多くの思い出があります。白井小学校には五年間お世話になりました。二年目からは新しい先生をお迎えするとき「古い校舎で驚いたでしょう」と聞きました。すると「本当に素晴らしい学校で、懐かしい感じがします」と、どの先生も答えてくれました。すかさず「ポロは着ても心は錦」の意気込み

で子供たちも職員も頑張っています」と続けたものでした。この学校最後の勤務の日、荷物の整理をしていると「三時だからお茶にしませんか」との声。教務室へ行って心のこもったお茶をいただきながら三、四人の先生と思ひ出話をしました。今度は新しい校舎の学校で、修繕の心配がいらぬからいいですね」続いて「私たち、ここへ来たとき学校らしい学校などと言ったけど、本当はあまり古い校舎なのでびびくりしたんだよね」と本音が飛び出し、大笑い

したことがすぐこの間のことのように忘れられません。この白井小学校も新しい学校に生まれ変わる見通しも立ったとのことで、大変喜んでおります。一日も早くその日の訪れを待っている一人です。



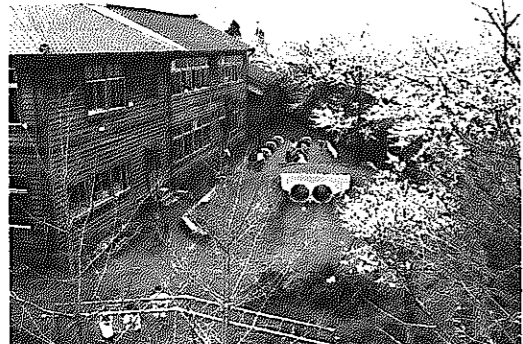
私の人生の歩み 苦勞の後の幸福

小柳ノイさん(中火郷・無職・81歳)

私は昭和九年に大郷に嫁ぎました。二十四歳でした。私の主人は、親が結婚して十三年目にできた子供だったので、蝶よ花よと育てられ、仕事はあまりしませんでした。親はかわいい、かわいいの一点張り。その上わがままでした。私たち夫婦は七人の子供に恵まれました。しかし、私がいかに無理をしたために四人も亡くなりました。

五年間それで悩みました。私は子供がいるのにどうしようと思ひました。何しろ女手一つです。悩みながらも、とにかく働きまわりました。親は働かない夫を心配しながら亡くなりました。

私はどうしようもなく実家へ帰り親に話しましたが、大変しかられました。「何コキヤがる。子供がいれば根が生えたというもんだ。石にかじりついてでもやってみせ」と。そこで私も考えました。せつかく因縁があつて嫁ぎ、子供がいる。主人が仕事をしなくともやればできる。



私は昭和九年に大郷に嫁ぎました。二十四歳でした。私の主人は、親が結婚して十三年目にできた子供だったので、蝶よ花よと育てられ、仕事はあまりしませんでした。親はかわいい、かわいいの一点張り。その上わがままでした。私たち夫婦は七人の子供に恵まれました。しかし、私がいかに無理をしたために四人も亡くなりました。

私はどうしようもなく実家へ帰り親に話しましたが、大変しかられました。「何コキヤがる。子供がいれば根が生えたというもんだ。石にかじりついてでもやってみせ」と。そこで私も考えました。せつかく因縁があつて嫁ぎ、子供がいる。主人が仕事をしなくともやればできる。

私はどうしようもなく実家へ帰り親に話しましたが、大変しかられました。「何コキヤがる。子供がいれば根が生えたというもんだ。石にかじりついてでもやってみせ」と。そこで私も考えました。せつかく因縁があつて嫁ぎ、子供がいる。主人が仕事をしなくともやればできる。

市民文芸

俳句

餅となりきつたる杵の重さかな 成沢 素明
星屑えて地はくろぐると眠りをり 公条 雪夫
らふ梅の咲きし山家に主なし 吉川八重子
弱き陽をしっかりとらへ冬菜畑 細貝 漢子
風花の舞うてガス灯華やげり 小林 光子
荒海といふもおだやか寒の入 和泉 伸子
大樺枯木となりて静もれる 豊木サグ子
お降りをおつめて川面光りけり 木村 トリ
羹湯の湯気立ちのぼる初湯かな 山田 孝
大空に五色の水や出初式 知野信一郎
牡蠣汁に仲間とかわす初句会 (以上大風会)
玉木 長吉
短歌
張りつめる野道に光る薄氷の 中村 京
模様線の滑らかに伸ぶ 山なす現代を文化といふか 泉 博
剣道暦六十年は過ぎにけり 孫の打突に知る限界を 小出熊四郎

川柳

暖冬に大寒の空に鳶を舞ふ 小出よしの
治療受けつつ窓より眺む 織田 福治
愚痴と茶が一箱に出でくる妻が居る 織田 セツ
ハンカチを洗う男のごつい指 後藤マサノ
お似合いのその一言で買った服 佐藤 トミノ
恋かしら礼儀正しくなる正座 佐藤 トミノ
百歳の長寿が似合うさんときん 佐藤 トミノ
ゴザボシが墨絵に似合う豪雪地 高橋祐四雄
国技でも体力差には押されぬ味 竹石 甚五
ストッキングに女の知恵を詰めておく 田村 恒夫
永田町裸の土俵入りは無い 中村 尚治
絵馬とつと揃い踏みする入試前 西条 ムラ
玄關の咳が掃宅を告げている 早川 英男
似合いますお下がりの古いの襦に 山岡 フミ
家中の曲車狂う妻の風邪 吉川 彰
じゃじゃ馬も華麗に化ける披露宴 星井 陽子
医師の目に安堵の胸を撫でおろす 米野 光雄
旅行社に五輪切符は売ってない 今井 七郎
忍の字の上の幸福だつた 田中 成子
自分の名書いて書き味確かめる 長井 徳市
眠れぬ夜亡妻をこっそり呼んでみ 大井 義雄